

# 環境課題への取り組み

## 活動報告 - 環境



environment

### 【今期活動のポイント】

環境課題への取り組みは、当初計画からの前倒し実施や、コロナ禍による影響で営業機会縮小などもあり、数値目標は達成できました。

しかしながら、脱炭素化推進に向けては、直近の資源価格高騰長期化を見据え、電力使用量のさらなる削減や調達コストの抑制、環境変化を踏まえたロードマップの実現性を高める取り組みが必要と認識しています。

また、循環型ビジネス構築や、廃棄物削減に向けては、お客様やお取引先に対する情報発信・啓発活動を徹底するなど、プラットフォームとしての役割をさらに発揮し、取り組みを進めていきます。

当社は、経営理念における5つの指針のひとつに「地球環境を守るためのたゆめめ努力」を掲げ、[高島屋グループ環境方針]においても、地球温暖化防止やCO<sub>2</sub>排出量削減に重点を置き、持続可能な社会実現への貢献を目指しています。お客様やお取引先、地域社会などと直接接点を持つ事業特性をいかし、2000年の方針策定以降さまざまな活動に取り組んできました。

近年の気候変動にともなう自然災害の頻発化や激甚化、食糧供給へのリスク増などは、人々の暮らしを脅かし、環境問題への取り組みの重要性や緊急性は高まっています。2021年秋開催の「第26回 国連気候変動枠組条約締結国会議 (COP26)」では、世界の平均気温上昇を産業革命以前の水準より1.5°Cまでに抑える努力をすることを正式に確認しましたが、現状は、すでに1°C以上の上昇がみとめられています。そこで目標達成のためには、従来型システムやビジネスモデルを大胆に変革し、地球資源を再生・修復するモデルへの転換が必要であると認識しています。

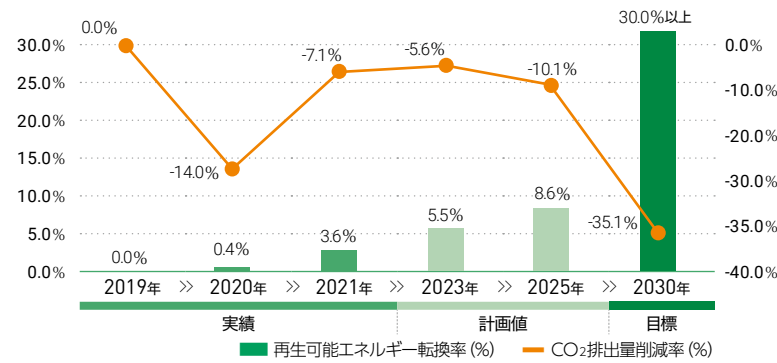
当社は、脱炭素社会や循環型社会の実現に貢献すべく、ESG経営で設定した5つの環境に関する重点課題の取り組みを通じ、環境に配慮した事業活動を推進し、地球環境を守るための努力を続けていきます。

### 【重点課題と取り組みの進捗状況】

#### 1 脱炭素化推進 RE100



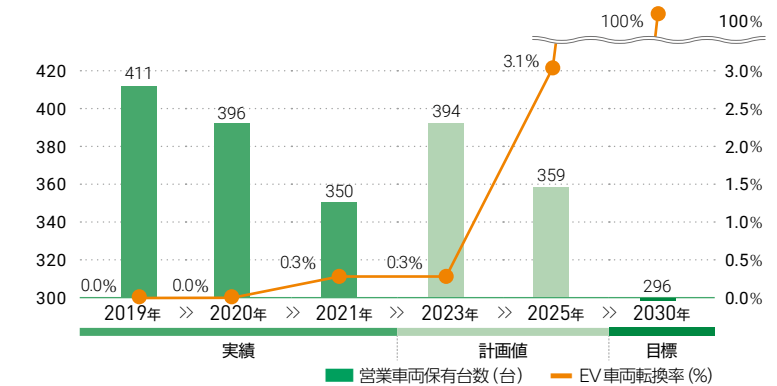
LED化の推進など、電力使用量を削減するとともに、再生可能エネルギー由来電力の導入施設を拡大しました。資源価格高騰長期化を見据え、使用量のさらなる削減や調達手法の多角化を検討します。



#### 2 脱炭素化推進 EV100



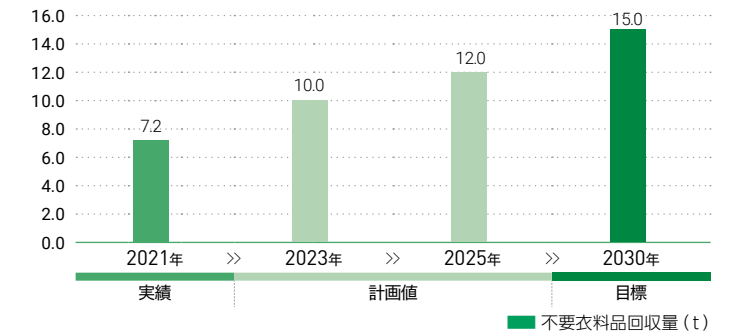
外商営業車両の台数適正化に向け、運行実態調査に基づき2年間累計で△107台にするるとともに、燃料電池車を試験的に導入。また、お客様用駐車場への充電設備の拡充に着手しています。



#### 3 循環型ビジネス



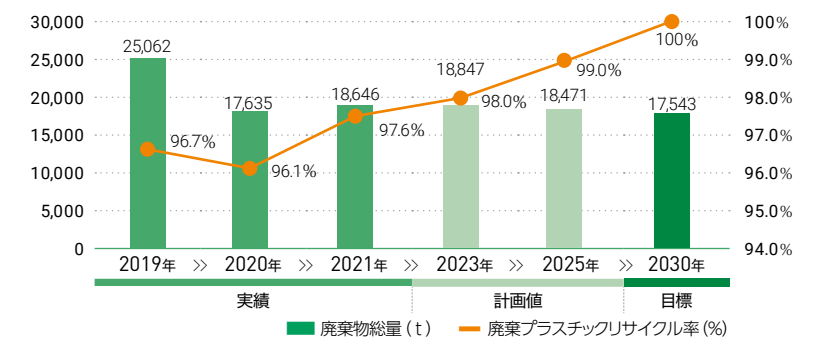
循環型ビジネスの定着化に向け、全店で衣料品回収キャンペーンを実施するとともに、カシミアやデニムの回収・再製品化に取り組むなど、お客様の認知度も向上、回収量も増加しています。



#### 4 廃棄プラスチック削減



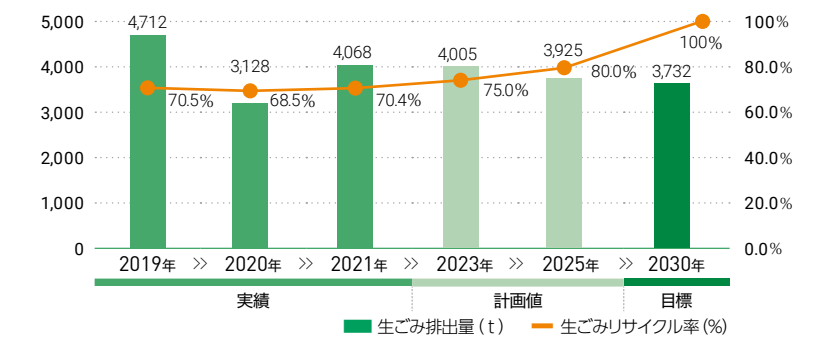
ワンウェイプラスチック製品の提供削減や脱段ボール化促進等に取り組みました。今後は、リサイクル可能な廃棄物のマテリアルリサイクル化の拡充に取り組み、2022年4月施行の「プラスチック資源循環促進法」に対応していきます。



#### 5 食品ロス削減



売り切れなかった食品の二次活用や、廃棄物の堆肥化を推進。また、地域のこども食堂や、フードバンク活動への支援拡充による食品ロス削減を図りました。今後も、お客様への啓発活動や、フードバンク活動の定着化に取り組んでいきます。





## 1 脱炭素化推進 RE 100

当社は、2019年、事業活動で使用する電力を100%再生可能エネルギー由来の電力で調達することを旨とする国際イニシアチブ「RE100」に参加しました。「2050年までに事業活動で使用する電力の100%を再生可能エネルギーに転換すること」を目標とし、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推進しています。



流山おおたかの森S・C

### ● 再生可能エネルギー由来電力への転換加速

前年度に引き続き、2021年度は、当初計画から前倒しを行い、グループ5施設（流山おおたかの森の3施設、高島屋大宮店、日本橋3丁目スクエア）に、再生可能エネルギー由来の電力を導入しました。

2022年度も、流山おおたかの森S・C ANNEX2、こもれびテラスなど5施設に再生可能エネルギー由来の電力を導入し、脱炭素化を加速していきます。

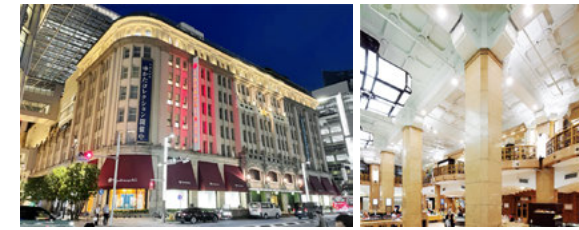
日本橋  
3丁目スクエア



### ● LED化の推進

店舗設備を省エネ効率の高い機器へと順次更新するとともに、既存照明をLED照明へ変更することにより、使用電力量の削減およびCO<sub>2</sub>排出量の削減に努めています。

このような継続的なLED化投資により、高島屋グループ国内百貨店では、2011年から2021年までに約22,500MWhの電力使用量を削減、約10,000t-CO<sub>2</sub>のCO<sub>2</sub>排出量削減を実現しました。



日本橋高島屋S.C. 本館の照明

### ● 太陽光パネルの設置

2022年6月に開業した「流山おおたかの森S・C ANNEX2」には、太陽光パネルを設置しています。

太陽光パネルで発電した電力を地下駐車場に設置しているEV車用充電器に供給するとともに、日中の駐車場共用部照明に利用しています。また、発電した電力の一部は蓄電しており、災害による停電時にはこの電力を非常照明として利用します。

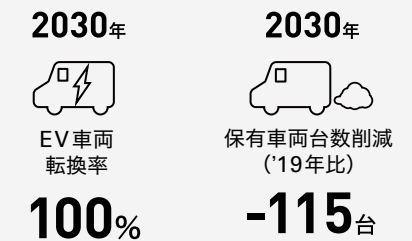


流山おおたかの森S・C ANNEX2

## 2 脱炭素化推進 EV 100

国際環境NPOであるThe Climate Group（クライメイト・グループ）によると、輸送ビジネスの温室効果ガス排出量は、エネルギー利用に関する全排出量の23%を占める（2019年3月時点）といわれています。

当社は2019年、事業活動で使用する車両を100%電気自動車化することを旨とする国際イニシアチブ「EV100」に参加し、「2030年までに高島屋グループが直接管理している車両を100%電気自動車化すること」を目標とし、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推進しています。



### ● 保有車両台数の削減・適正化、EV車充電設備の拡充

高島屋グループ国内百貨店において、各店が営業活動で使用する外商車両の台数削減・適正化を図るため、日々使用状況を分析、効率的な使用方法の見直しにより、昨年度は当初計画を大幅に上回る外商車両台数の削減（△54台）が実現しました。

また、EV車両の普及を促進するため、お客様にご利用いただける充電設備の拡充に取り組んでいます。玉川高島屋S・C、柏高島屋ステーションモール、流山おおたかの森S・CにEV車両チャージステーションを設置しており、2021年度は玉川高島屋S・Cに17台新たに増設しました。順次導入を拡大していきます。





### 3 循環型ビジネス

百貨店の主力商品である繊維・アパレル産業は、製造にかかるエネルギー使用量やライフサイクルの短さなどから、環境負荷がきわめて大きい産業と指摘されており、国際的な課題となっています。

衣料品の国内新規供給量は81.9万トン/年(2020年)。その約6割に相当する51.0万トン/年が廃棄されるといわれています。廃棄衣料品の95%は可燃ゴミや不燃ゴミとして焼却・埋め立てされるため、非常に大きな環境負荷が生じています。

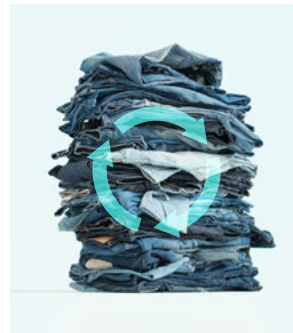
当社では、不要となった衣料品の回収・再生・販売の循環型スキームを構築し、「売りっ放し」からの脱却を目指すと同時に「再生された服や雑貨」を提供することにより、新たな地下資源を使うことなく、サステナブルなビジネスモデルへの変革を、お客様やサプライチェーンの皆様とともに推進していきます。



- ファッションロス削減を目指し、魅力あるモノづくりを拡充

#### Depart de Loop

まだ着られるにもかかわらず、大量の衣料品が廃棄されるファッションロス(衣服ロス)は、食品ロス同様、大きな社会問題になっています。[Depart de Loop]により「再生された服や雑貨」が再び生活の中へもどるには、再生された商品の魅力化が大変重要です。高島屋はクリエイターやナショナルブランドとの協業により、当社限定商品としてモノづくりを行うなど、付加価値の高い商品開発に取り組んでいます。



また、循環型商品の対象素材をポリエステル製品だけでなく、カシミア製品やデニム製品にも広げ、循環型商品の展開拡大を図るとともに、魅力あるモノづくりに取り組んでいます。

- “エコ&エシカル”をテーマにした、暮らし方の提案「TSUNAGU ACTION」

#### 未来につながる今日の一步。 TSUNAGU ACTION

地球環境や社会にも貢献する生活スタイル、消費スタイルやソーシャルグッドな価値観が広まるなか、高島屋では、サステナブルな商品の提案を通して、エコ&エシカルな暮らしについて、お客様と一緒に考える「TSUNAGU ACTION(ツナグ アクション)」を全店舗で展開しています。

地球、社会、そして人々にとって、より良い未来をつくっていくために、「使い捨てない・無駄にしない」、「環境に優しい」、「暮らしを守る・応援する」、「大切に使う・お手入れを楽しむ」など、環境や社会に貢献する“ファン・エシカル”を提案するとともに、具体的なアクションにつなげていきたいと考えています。「モノを選ぶ時にサステナブルな考えを取り入れて、一人ひとりができることから、今日の一步を一緒に踏み出しましょう。毎日の積み重ねが未来への大きな一歩になります。」そんなメッセージを発信しています。

### 4 廃棄プラスチック削減

プラスチックの生産量と廃棄量は増加の一途をたどり、2050年には、海洋に投棄されたプラスチックごみの量が海洋中の魚の量を上まわるといわれています。世界中でプラスチック廃棄量の削減、リサイクル活用の促進が求められる中、日本国内においても2022年4月、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行されました。

特定プラスチック製品を提供する事業者該当する高島屋グループの対象会社では、ワンウェイプラスチック製品の使用合理化に向け、店頭でのお客様へのお声かけによる協力要請、POPやポスターでの啓発活動、プラスチック用品の薄肉化や代替素材の活用などにより、継続的にプラスチック廃棄物の削減に取り組んでいます。

また、商品の納品時に使用され、その後大量に廃棄される段ボールなど、プラスチック以外の廃棄物についても、お取引先と協業し、削減に取り組んでいます。



- ワンウェイプラスチック製品の使用合理化

製品の設計からプラスチック廃棄物の処理までに関わるあらゆる主体におけるプラスチック資源循環等の取り組み(3R+Renewable)を促進するため、2022年4月「プラスチック資源循環法」が施行されました。

法施行により、小売・サービス事業者などに対しては、消費者に無償提供しているワンウェイプラスチック製品の使用合理化と、プラスチック廃棄物の排出抑制・再資源化への対応が求められています。当社では、お取引先も含めた提供量の実態調査を実施し、店頭でのお声かけやポスターなどによる啓発活動、取引先有料化への対応、代替素材への変更等を行い、2030年削減目標



廃棄プラスチック削減を呼びかけるポスター

△30%(2019年比)に向け、ワンウェイプラスチックの提供量削減に取り組んでいます。また、プラスチック廃棄物の排出抑制に取り組むとともに、ペットボトルや衣料品ビニールカバーなど、リサイクル可能な廃棄物のマテリアルリサイクル化の推進に取り組んでいます。

- 脱段ボール化促進

百貨店の店舗で排出される廃棄物のうち、段ボールごみは約3割を占めています。その大半は納品時に使用され、その後不要となり、廃棄されるものです。当社のお取引先が店舗に納品を行う際に、エコBiz社が開発した通い箱「Eco Biz Box(以下エコBizボックス)」を繰り返しご利用いただくことで、廃棄段ボールを削減していきます。

2022年3月から、日本橋高島屋S.C.本館で衣料品の納返品時にエコBizボックスを使用し、脱段ボール化の取り組みをスタートしています。今後、参画いただけるお取引先を増やすとともに、将来的には全店に拡大することで、2030年に当社から廃棄される段ボール量を約3割(廃棄物総量の約1割)削減することを目指していきます。



## 5 食品ロス削減

食品ロスとは、本来食べられるにもかかわらず捨てられている食品です。世界では、コロナ感染症の影響により、飢餓人口は急激に増加し、2020年度では、世界人口の10人に1人に当たる最大8.1億人が飢餓で苦しんでいるといわれています。

一方で、農林水産省が2021年公表した2020年の日本の食品ロス量は、推計を開始した1998年以降、最少量ではあるものの、約522万トンもあり、国民1人あたりに換算すると、茶碗約1杯分に近い量を毎日廃棄している状況です。

食料品フロアやレストランなど、多種多様な食のシーンを提供する当社にとって、食品ロス削減は極めて重要な課題であり、残った生ごみをリサイクル施設に持ち込み、飼料化・肥料化での再利用やメタンガス発電に活用するなど、さまざまな取り組みを実施しています。

さらに近年は取り組みを強化し、地域の子ども食堂やフードバンク団体の活動支援を通じ、売り切れなかった商品の提供拡大に加え、売り切れなかったパンをクラフトビール原料として二次活用し、販売するなど、食品ロス削減に向けた取り組みを積極的に実施しています。

2030年



生ごみ  
リサイクル率

100%

2030年



生ごみ排出量削減  
('19年比)

-20%

### ● 売り切れなかった食品の二次活用



[RE:BREAD]

百貨店で発生している食品ロスには、売り切れなかったパンの廃棄率が非常に高く、当社では、パンの冷凍販売や廃棄商品の堆肥化による循環型農業への参画など、環境に配慮した取り組みを行ってきました。

高島屋横浜店では、食品ロス削減に向けた新たな取り組みとして、クラフトビールを提供する「ON TAP 江戸東京ビール」様の協力のもと、廃棄間近のパンを原料とした環境に優しい発泡酒「RE:BREAD」として販売しました。廃棄間近のパンを二次活用し、「白ビール」の一種である「ホワイトエール」をピラススタイルで醸造することで、パンにも合わせやすい苦みの少ない優しい味わいに仕上げられ、好評を得ました。

### ● フードバンク活動への支援

さまざまな事情で生活に困難を抱えているご家庭のセーフティネットとして活動を行う、地域の子ども食堂やフードバンク団体の活動を支援する取り組みとして、百貨店・SCにて、フードドライブイベントを実施しています。

フードドライブとは、各家庭で保管している食品を提供いただき、必要としている人や団体に無償で提供する取り組みです。お客様から提供された食品は、地元のフードバンク団体を通じて地域の子ども食堂や、食品を必要としているご家庭に届けられます。多くの方々へ認知を広げることが課題となっていますが、当社としても、活動場所の提供やイベント情報の発信など、場の特性をいかした活動支援を通じて、食品ロス削減や貧困支援に貢献していきます。

上：「子ども食堂」の告知パネル  
下：高島屋京都店でのフードドライブイベントの様子



## トピックス >>

高島屋グループでは、各社の事業特性に応じた環境課題解決に取り組んでいます。各社の環境活動をご紹介します。



東神開発株式会社  
[商業開発業]

### ● 「たまがわBOOKフリマ」による「地域コミュニティ」の創造

玉川高島屋S・Cでは「地域コミュニティの創造」に取り組んでいます。2022年は、「本好き」をテーマとしたコミュニティイベント「たまがわBOOKフリマ」を初めて開催し、2日間で100ブース以上の出店と2,000名を超える来場者にお越しいただきました。

「大切にしていた本を捨てるのではなく次の使い手に渡すことができた」、「共通の趣味を持つ人、新たなジャンルを薦めてくれる人に出会えてうれしい」といった感想をいただき、お客様同士がつながり、語り合う様子が多くみられました。

### ● SCにおける食ロス削減の取り組み

なんばダイニングメゾンでは、テナント様の協力のもと、フレンチレストランなどで導入されている「スモールポーション」の仕組みを取り入れ、少量でのご注文や小分けでのご要望に対応するとともに、食べ切れなかったお食事の持ち帰りもできるようにしました。お客様からは「残さず食べ切れるので罪悪感が無く、フードロス削減にも貢献できる」と共感の声をいただいています。



高島屋スペースクリエイツ株式会社  
[建築業]

### ● 育林による排出CO<sub>2</sub>削減

高島屋スペースクリエイツ株式会社は、1993年に静岡県浜松市の国有林約1万坪を借り受け、9,000本を超えるヒノキなどの苗木を植えました。植樹以来およそ30年が経過し、この山は森となり、CO<sub>2</sub>の削減に大きく貢献しています。

苗木が成木になるまで約半世紀、地元の森林組合様の力を借りながら枝打ちや間伐を行っています。2022年6月には「除伐」という、樹木の生育を妨げるほかの樹木を刈り払う作業を行いました。



高島屋スペースクリエイツの森



サイアム高島屋  
[百貨店業]

### ● 『TAKA Earth Care Project』の始動

タイでは2年前からプラスチックバッグの配布が禁止になるなど環境への配慮に関心が高まっています。こうした中、タイの小売業界でいち早く環境保護に取り組む「タカ・アースケアプロジェクト」がサイアム高島屋で始動しました。今後、従業員からアイデアを公募し、持続可能な社会の実現に向けてさまざまな取り組みを行っていきます。

活動の第1弾としてバンコク郊外のチャオプラヤ川河口に位置するマングローブの森の植林活動を行いました。当日は、お取引先スタッフを含め約70人がこの植林活動に参加。保護センターの職員の方からの説明を受けた後、全員が膝まで泥につかりながらマングローブの苗を植林。今後も継続してこのプロジェクトを推進していきます。



「タカ・アースケアプロジェクト」に取り組むサイアム高島屋の従業員



株式会社アール・ティー・コーポレーション  
[レストラン業]

### ● 従業員食堂におけるマイカップ持参キャンペーン

廃棄プラスチック削減に向け高島屋各店と協同し、当社が運営する高島屋各店社員食堂に併設のコンビニ・喫茶にて販売するアイスコーヒーなどコールドドリンク類のプラスチックカップの使用削減に向けて「マイカップ持ち込み割」を実施。従業員がマイカップやマイボトルを持参の場合は販売価格より10円引にて提供しています。来店従業員にマイボトルの持参を促す、啓蒙ポスターも作成しました。

